

SSKO

つばさ

編集発行 厚木市手をつなぐ育成会
会長 風間 陽子
事務局 厚木市愛甲1-25-1
山口 和子 宅
TEL&FAX 046-247-5055

聞いてみた
かったので…

事業所アンケートを実施しました

2020年度ももうすぐ終わろうとしています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で私たち育成会の活動も大幅に制限され、大変残念な一年となりました。また家庭においても思い通りにならない生活をずっと続け、特に変化に弱い我が子達は現在もつらい時間をずっと過ごしています。

そして大変な状況はいつもお世話になっている事業所でも一緒です。このコロナ禍において利用者の様子はどうか、またどのような対策をしているのかを知りたく、今回厚木市内事業所にアンケートをお願いしたところ14の事業所から回答をいただきました。テーマごとにまとめてみましたのでご報告致します。

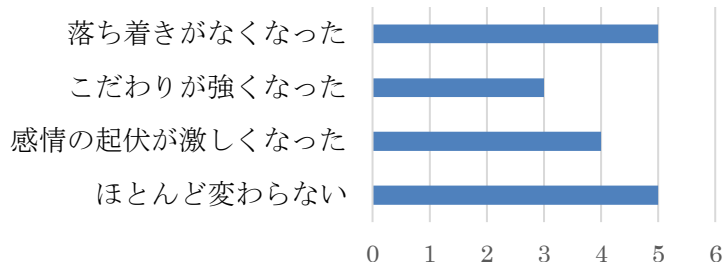
※回答は12月1日現在の状況でお願いしました。また入所・通所は分けずに一緒にさせていただきました。(質問によっては一部分かれています。)

利用者の様子

その他(記述)

- 帰宅できる人とそうでない人がいて、精神的に不安定になった利用者もいた。(入所施設)
- 環境が変わってストレスや不満があるようだ。
- 今まで関心のあったものに興味がなくなった。
- 仕事の増減が激しく変化に対応できない。
- 一定のパターン(思うようにいかない)が続くと逆に落ち着いた方もいた。
- 行事がなくなり残念そうだが、受け入れることができるようになって普段と様子はあまり変わらない。

以前と比べてどうなったか



不安を解消するために工夫したこと

- 普段と変わらない日常を提供すること(複数)
- 密にならないことを心掛けながら行事やお楽しみを実施した。(複数)
- 感染防止対策をしっかり行っていること、今の状況をできるだけ伝えること(複数)
- ドライブや散歩に行った。(複数)(外出については必ず下見をし、すいている状況を確認の上実施する)

(前頁からの続き)

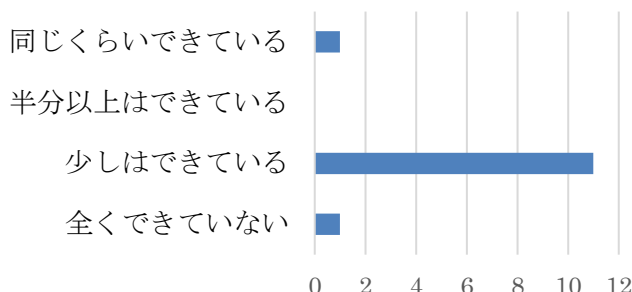
- リラックスできるように軽音楽を流している。
- ユニット内で利用者同士が楽しめるゲーム、茶話会的な企画を若干多くした。
- 外食ができないので出前を取った。
- 一人で作業できるスペースを設けた。
- 季節の飾りつけをした。

行事や活動について

感染防止のために配慮したこと

- 大人数での行事は原則中止した。
 - ・会場を入れ替え制にして時間と人を分けた。会場での飲食を控えた。
 - ・施設全体での集まりからフロア単位に変更した。
 - ・法人全体の祭りは外部招待は中止し内部で短縮した形で実施
 - ・会食の行事は少人数にして屋外で行った。
 - ・グループでの外出レクは室内での飲食に変更し、座席も1つおきにした。喚起しながら短時間で。
 - ・例年の夏祭りは成人と児童を時間と場所を分けて時間短縮で実施した。
 - ・納涼祭は各課単位で縮小して行った。
 - ・秋のフェスタは縮小版かつ2部制にして行った。
 - ・複数の課が集まらないよう参加日を分けて行った。
- 手洗い消毒の徹底、1日2回の検温、窓を開けて換気に注意、出入り口に消毒液など
- 独自のイベントは形を変えて行っている(例：忘年会とカラオケ→所内でビュッフェランチ&映画上映に変更)
- 密にならないように椅子の位置を離したりマスクをしたままで行った。広い場所(体育館やレストラン)を利用している。
- テーブル上に飛沫防止用のパーティションを設置した。
- 少しでも体調不良があったときは無理せず休養するようお願いした。
- 屋外の散歩は継続しているが屋内のプールは中止にしている。
- オンラインシステムを活用している。
- 食べ物は個別で取り分けて出した。(例：寿司は1人前を人数分用意する…など)

例年と比べて...



発熱時の対応やPCR検査について

発熱時の対応で気を付けていること

- 発熱者が出ればすぐ隔離する対応を取り、感染が拡大しない対応を取っている。(複数)
- 食事はすべて使い捨て用の容器を使用。(複数)
- 早めの受診・検査を行い、自分たちで判断しない。医療の判断を仰ぐ。
- 体調不良者は可能な限り個室を用意して静養。状況に応じて感染防御(ガウン・フェイスシールド・プラスチックグローブなど)をしながらケアを行う。

- 食事を提供する職員はキャップ・エプロン・ゴーグル・ビニール手袋着用、提供後はすぐに処分する。
- 休憩時のお茶等は使い捨てのものに変更した。
- 驚くべきことですが、ほぼこの一年発熱した方はいません。
- 基本的に発熱時は可能であれば帰宅(早退) 《通所》
- 朝の時点で発熱があった場合家族に連絡し早めの帰宅を促している。《通所》
- 発熱時はお休みしていただいている。《通所》

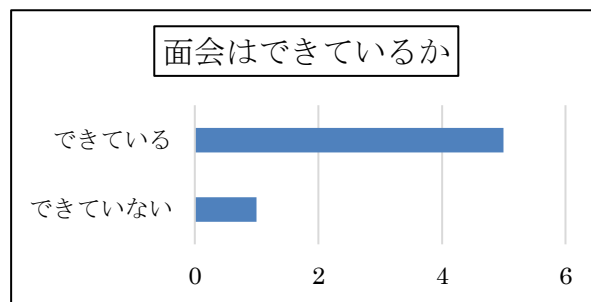
PCR検査時の様子について (対象者がいた事業所に聞いてみました)

- 保健所の方々が拠点に来て実施した。時間帯を分けて、来所したらすぐに検査して帰宅してもらった。綿棒でのどをさわる検査
- 2名、結果は陰性、救急室で行った。
- 4月、発熱した利用者が受けた。当時は結果が出るまで数日かかり該当フロアを閉鎖、本人にかかわる支援員を限定、本人居室が角部屋だったため廊下にビニールカーテンを貼り空間を分けた。
- PCR検査では鼻腔内の粘膜検査を行った。違和感により抵抗感があったが、少しの間職員が頭部を支え本人に頑張ってもらいながら検査を受けることができた。
- PCR検査ではないが、抗原検査を受けられた方がいる。事前に37度以上の発熱があることを伝え、インフルエンザと同様に鼻に綿棒を入れて検査キットで検査。15分くらいで結果が出ている、料金は9000円。ちなみに受けなかったがPCR検査の料金は25000円で障害者医療証を持っていても割引はない。
- 1名(利用者)お母さんに連絡を受け、かかりつけの病院に直接TELするように伝えた。すぐに検査してくれ、結果は陰性だったが次の日は一応休んでいただき、2日後から通所した。
- 保健所より検査キットをもらい、当園看護師が行ったので負担が大きかった。
- 2度目の検査では保健所職員が利用者各居室に行き対応していただいた。

面会について(入所施設)

面会時に気を付けていること

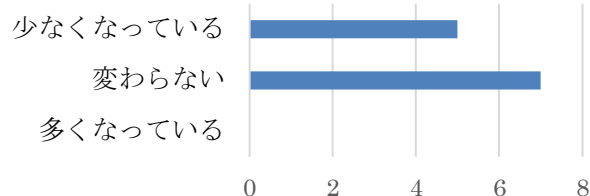
- 月に1回30分以内、1度に面接室に入るのは2名に限定した。面会が終わると職員が消毒をしている。
- 入所棟は立ち入り禁止とし、別棟の会議室でアクリル板越しに30分、入館時は検温・消毒を実施、利用後は換気消毒を実施。ただし、全ての方が面会に来ていただけているわけではなく、都内や遠方で来られない方については変化に対しての電話連絡、写真入り文書による定期通信を郵送している。今後オンラインに切り替え予定
- オンライン面会(LINEビデオ通話)と制限付き面会を実施。面会について1週間前からの検温をご家族に依頼。飲食は控え時間も15分に制限、会議室などを使用し飛沫防止のつい立をはさんで行う。
- 生活場面には入室できないよう配慮している。面会場所は玄関ロビーまたは外で面会していただいている。
- 課ごとに面会日を決めて交わらないようにしている。
(前頁からの続き)
- 館内ではなく共有スペース(広いスペース)
- (面会ができない事業所) 利用者の様子は連絡票を送っている。ホームページで利用者の様子を伝えている。



利用日数(通所施設)

この件に関しては、特にコメントを求めませんでした。

利用日数(平均)は



運営で一番大変なこと

- 仕事と工賃の減少
- 3つの密を避けて、サービス提供をすることと、衛生管理をどこまで徹底できるかとスタッフのモチベーションの維持
- 上手に気持ちを表せない方々へ、表情などから気持ちを汲み取る努力。よりそうのですが、急にできる事でなく平時の支援をより深くしていくことが大切
- 施設内にコロナウイルスを持ち込まないこと
- 体調不良の職員が出た際の送迎、トイレ介助の人員確保
- 体調不良の際、コロナ検査を受けることにならなかった場合の復帰時期
- 利用者作業の確保
- 地域資源の活用を進めていたがストップしている。
- 短期入所を休止、ニーズに応えられない心苦しき
- 利用者のイレギュラー感をいかに少なくするか
- 支援員の質の向上のための研修もほぼ中止。内部での工夫など初めてのことで苦慮することが多い。
- 利用者さんの仕事が減ったので、仕事のないときの過ごし方や新しい仕事の開拓。外部行事が減ったので代替行事を考え実施すること
- 感染予防対策に終わりがなく、ずっと続けていかなければならないこと。
- 家族との交流、地域との交流、行事やイベント、外出なども含めて様々な面で人との交流や利用者さんの生活に制限をかけてしまうこと
- 手洗いについてはなんとか行う事が出来ているがマスクについては普段使い慣れていないことや皮膚感覚でつけられない方に対して言葉では伝えていてもつけられない状況をなくせない。
- 食事前うがいをすることの徹底ができていない。
- コロナ感染の正しい怖さをなかなか理解してもらえない。
- コロナを持ち込まない。
- 金銭面では問題なく運営できていることはありがたい。
- イベントやお出かけが通常通りできないことの説明が難しい。
- 万が一陽性が出た場合、地域の中で理解が得られるか不安
- 家を出るときに各ご家庭で必ず検温してもらい、37度以上あった場合は登園を遠慮してもらっています。
- 入所利用者との交流は避けています。
- 職員が感染症等持ち込まないようにすること
- 利用者さんの体調を普段よりこまめに観察すること
- マスクが出来ない利用者さんがいるため環境整備で対応すること

家族にお願いしたいこと

(原文のまま載せてあります)

- 施設内に外部から菌を持ち込まれることが一番不安な部分である為、今後も利用者さんの命を守る為ご協力を引き続きお願いしたいと思っています。リモートの面会など考えているところです。
- 石鹸を使った手洗いの継続は重要だと思います。
- 体調に変化があればこまめにご連絡ください。
- 幸い、皆様とても協力的です。もっと不満を言って欲しい。ご家族の思いをどれだけ受け止められているか？自信はありませんが一つでも希望に応えていきたいと心から思っている。
- 外泊も月に1回1泊まで自家用車で送迎という形で行っているが不要不急の外出、外食などは控えてもらいたい。
- 発熱以外の体調不良(咳、くしゃみ、鼻水、下痢)の場合もなるべく利用を控えて欲しい。同居人の体調不良も念のため教えて欲しい。
- 基本的には家族の会を中心に支援に対してご理解は得られています。
- いつもより体温が高いときや体調が悪いときは無理せずにお休みしていただきたい。いつも以上に情報共有していきたい。
- ウイルスは人を選びませんし、だれもが病気に罹りたくて罹る方はいませんので、利用者さん職員で誰が罹っても責任を迫及したり、責めたりしない。そういった思いでいただけるとそれだけで職員は心強いです。利用者さんについて一緒に情報共有しながら考えていけるとありがたいです。
- いつでもマスクをつける、食事前の手洗いうがいを行う、急な用事がない限り人込みは避ける等家族から再度伝えてもらいたい。
- コロナ感染は怖いことと、正しく恐れることができるよう伝えてもらいたい。
- 少しでも普段と違う様子等がある場合には無理せず休養してもらいたい。
- 厳しい中でなんとか運営しています。ご本人さんやご家族も大変だと思います。少しでも安らげる時間が作れればと思い、感染対策を行いがんばっています。ご本人さんご家族のご協力なくして運営できません。いつもありがとうございます。
- シンプルに毎朝の検温、毎日のことなのでお互い気が緩むことがあると思いますが、それが通所事業所の基本だと思います。送迎がある事業所が多いので、そこで密になる事は防げないです。送迎の便を増やして乗る人数を減らす事が一番ですがその対応にも限界があります。車の中が一番危ないと感じています。
- ご家族の感染も心配です。マスク・手指の消毒、三密に充分配慮していただければと思います。
- 大変心苦しいのですが面会の制限をせざるを得ません。ご協力お願い致します。

～アンケートのまとめとして～

現在も続くコロナ禍、日常生活でのルーティンや予期しづらいスケジュールやイベント等の変化または中止などへの対応は、当事者のご本人はもちろん家族にとってもこの状況をどのように伝え、安定や理解をしてもらえば良いのかその都度悩む所ですが、沢山の方が利用している通所事業所・入所施設などで見守って下さる方々のご尽力には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。一人一人の特性やこだわりなどへの対応、そして施設の環境整備など多岐に渡り試行錯誤して下さっている事がアンケートに答えて戴いた事で具体的に見えてきました。(小林 栄子)

コロナ禍でのスポーツ教室

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、緊急事態宣言が発令され、青年活動部でも3月から活動を中止しました。

10/25(日)7ヵ月ぶりに会場の都合で1時間だけでしたがスポーツ教室を再開しました。

活動再開に当たり事前にインストラクターの遠藤陽子先生と入念な打ち合わせをし、まずは換気が出るか?ソーシャルディスタンスが取れるか?と。

非接触型の体温計、フェイスシールド、マウスシールド、消毒薬、ウエットティッシュ等々を準備して活動再開しました。

自宅、グループホームで検温はお願いしていますが、当日は本人達が会場に入る前に、窓全開、ドアを開けて換気をし、非接触型の体温計で検温(勿論付き添いも全員)をしてから会場に入ります。

11月、12月と休憩を挟みながら遠藤先生指導のもと2時間のスポーツ教室を楽しみました。

12月は例年スポーツ教室の後、クリスマス会をやるのですが、今年は会食が無理なので残念ですがクリスマス会は中止にしました。

本人達が楽しみにしているバス旅行もクリスマス会も中止だったので、本人達には内緒でプレゼントを用意し、スポーツ教室終了後に渡したのですが、何と遠藤先生からもプレゼントを頂き、2重の喜びとなりました。

また来年元気で会いましょうと言って解散したのですが、2度目の緊急事態宣言が発令され、1月のスポーツ教室は中止。緊急事態宣言延長になり2月のスポーツ教室も中止となりました。

令和3年4月からの1年間、新型コロナウイルスのワクチン接種の会場が福祉センターになる為福祉センターを利用出来ません。来年度は会場確保が難しくなりそうですが、本人達の安全を第一に考えて活動して行きたいと思います。(中村 京子)

◆今後の活動予定◆

3/21(日)10:00~12:00	福祉センター6Fホール
4/18(日)10:00~12:00	ぼうさいの丘公園講義室AB

事業所の皆様へ コロナ禍で大変な時期にも係わらずアンケートにご協力いただき御礼申し上げます。感染拡大にいろいろな対策をしつつ、困難な中でも普段と変わらぬ日常を、少しでも楽しい行事をと、日々懸命に取り組んで頂き心より感謝申し上げます。

会員の皆様へ 長引く自粛生活に気を緩めず、自分でできる予防はしっかりやり、コロナが終息したらどこへ行こうか?何をしようか?想像してください。全員が元気に笑顔で集える日まで、あと少しです。頑張りましょう。

◎令和3年度の総会は、昨年同様書面決議になる可能性が高いです。決定しましたらお知らせ致します。

(会長 風間 陽子)

発行所 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3丁目1-17 ヴェルドゥーラ祖師谷102
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会 定価100円(会費に含まれています)